

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稲の生育状況（8月5日現在）について

発信日：平成27年8月 8日

1 内容

- ・ キヌヒカリ

〈6月上旬植え〉

出穂期は8月4日で、平年と比べ4～5日程度早かった。

〈6月中旬植え〉

平年と比べ、草丈は高く、茎数、葉色は平年並みで、出穂期は早くなると予想される。

- ・ はるみ

〈6月上旬植え〉

出穂期は8月5日で、キヌヒカリと比べ1日程度遅かった。

〈6月中旬植え〉

キヌヒカリと比べ、草丈、茎数及び葉色は同等、出穂期はやや遅いと予想される。

- ・ さとじまん

〈6月上旬植え〉

平年と比べ、草丈はやや高く、茎数は平年並み、葉色は濃い。出穂期は早いと予想される。

〈6月中旬植え〉

平年と比べ、草丈は高く、茎数はやや少なく、葉色は濃い。出穂期はやや早まると予想される。

2 留意事項

今後の水稲の技術指導においては、次の点に留意して実施する。

(1) 1か月予報

気象庁が8月6日に発表した1か月予報では、気温は平年並みか高く、降水量はほぼ平年並み、日照時間は平年並みか多い見込みである。

(2) 水管理

穂ばらみ期（出穂期の15日前頃）から出穂後10日までの期間は、水を切らさないように注意する。

本年は高温が続いているため、掛け流し灌水を行い高温障害の回避を図る。出穂10日後以降は、間断かんがいを行って、根の活力維持を図り、品質低下を防ぐ。なお、間断灌水を行う場合、土壌は乾燥させすぎない。

(3) 追肥

本年は、7月中旬以降、高温、多日照の傾向であり、追肥（穂肥）を十分に施用していない場合は、粒の充実不足を招き、細粒が増えるものと考えられる。

出穂前で、葉色が極端に落ちている場合は、これからでも追肥を施用することが望ましい。基肥一発肥料を施用している場合でも、葉色が極端に落ちている場合は、追肥を施用することが望ましい。

(4) 病害虫

・斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の発生は平年並みと予想されている。カメムシ類は畦畔等の雑草で増殖しており、出穂期頃に除草すると、カメムシ類を水田に追い込むことになるため、これからの除草は実施しない。



写真1 ホソハリカメムシ

・籾の褐変

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下では、籾枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が発生しやすい。



写真2 褐変症状

・スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)

スクミリンゴガイの発生拡大を防止するため、水田周辺や水路に貝を発見したら捕殺する。ピンク色の卵 (卵塊) は潰す。また、発生地域では、水田内への侵入を防止するため、水口に網を設置する。



写真3 スクミリンゴガイ

左 用水路に生みつけられた卵塊(ピンクの物体) 右 成貝

・この他、病害虫の発生状況については、病害虫防除部の情報等には注意する。

(5) 農作業安全

農作業中の熱中症を予防するため、日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行う。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給するとともに、帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をする。また、農作業中の落雷による事故を防止するため、水田で雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づく様子があるときは、できるだけ早く家屋や自動車の内部等の安全な空間に避難する。

(6) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避、軽減のため、次の対策が有効である。

なお、事故防止の観点から台風接近後における水田等の見回りについては、気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、大雨、強風が治まり、安全な状況になってから行うこと。

ア 事前防止対策

- ・ 用排水路の詰まり等の点検、清掃を行い、浸水、冠水時の速やかな排水に備える。
- ・ 深水湛水できるよう畦畔の整備を行い、台風前は水田の水を深く張り、倒伏や急性萎凋を防ぐ。特に強い風を伴う台風は注意する。

イ 事後対策

- ・ 台風による損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保つ。
- ・ 浸水または冠水した場合は、速やかに水田から排水した後、新鮮な水で2～3回湛水と排水を繰り返す。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は、動噴等を利用して真水を散布し、洗い流す。
- ・ 急性萎凋すると穂（籾）や葉が黄変するが、これは水分バランスの崩れによる生理障害であり、追肥により回復することはないので、追肥は施用しない。
- ・ 強風による風ずれや冠水の被害を受けると、白葉枯病が発生する可能性がある。「さとじまん」は発生しやすいため、薬剤による防除を行う。
- ・ 台風通過後にウンカ類やコブノメイガ等の害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の情報等に注意する。

【参考】

◎農業技術センター（平塚市）における平年値（概ねの目安）

作期	品種名	水を切っては いけない期間	出穂期 (本年の出穂期)	成熟期
5 月 下 旬 植	キヌヒカリ	7月22日～ 8月16日頃	8月6日 (-)	9月13日
	さとじまん	7月30日～ 8月24日頃	8月14日 (-)	9月25日
6 月 上 旬 植	キヌヒカリ	7月25日～ 8月19日頃	8月9日 (8月4日)	9月18日
	はるみ*	7月26日～ 8月20日頃	8月10日 (8月5日)	9月20日
	さとじまん	8月1日～ 8月26日頃	8月16日	9月29日
6 月 中 旬 植	キヌヒカリ	8月1日～ 8月26日頃	8月16日	9月27日
	はるみ**	8月2日～ 8月27日頃	8月17日	9月29日
	さとじまん	8月6日～ 8月31日頃	8月21日	10月5 日

(注意) 水稻の生育に関する平年は、平成 17～26 年のデータに基づく。

5 月下旬植については、平成 14～18 年（5 年平均）のデータに基づく。

* ; 平成 20～24、26 年のデータに基づく。 ** ; 平成 21 年～24 年のデータに基づく。

連絡先

農業技術センター普及指導部作物加工課

平塚市上吉沢 1 6 1 7

TEL : 0463-58-0333 内線381～384

FAX : 0463-58-4254